

巻頭言

会員相互の「知、情報、経験」の交流・共有を

鈴木 昭憲

日本農学アカデミー会長・東京大学名誉教授

私は、祖田前会長を引き続いて平成18年7月から会長を務めさせていただいております。会員の皆様の御指導とご鞭撻により、無事に任務を全ういたしたいと考えておりますので、宜しくお願いたします。

日本農学アカデミーは、会員の皆様よくご存じの通り「わが国の農学徒の英知を結集し、農学の学術的ならびに社会的な役割と責務について産官学を横断した大所高所から分析、検討し、日本と世界の農学に関する学術体制や科学政策のあり方についての提言をまとめ、広く社会に公表すべきオピニオンリーダーとしての役割」を果たすべき組織として平成10年に設立されました。まもなく10年目を迎える今日、本会の現状をその設立の趣旨に照らして吟味してみる時期がきているのではないかと、私は考えております。

設立以来今日まで、本会を取り巻く社会環境が大きく変化いたしております。まず、日本学術会議の組織が変わりました。この件に関しては、前会長の祖田先生が本会報に詳しく論じておられます。農学関係の国公立大学や研究機関も、構造改革の流れのなかで組織形態が大きく変わり、それに伴ってそれら機関に所属する研究者の意識も変わりつつあります。本アカデミーも、それらの変化から無縁ではあり得ませんが、本会設立の趣旨・意義は不変であると考えております。

さて、本アカデミーの会員には、日本学術会議会員、同連携会員、農学系の

大学長、学部長等、試験研究機関の長等の現職および経験者をはじめ、わが国の農学、農業研究政策や方針について優れた識見と経験を有する多くの方々を擁し今日にいたっております。このような農学、農業分野の優れた方々を多数会員に擁することは、本アカデミーの貴重なそして唯一の資産であるとおもいます。私は、本アカデミーの組織としての当面の重要課題は、会員の皆様の「知、情報、経験」を相互に交流し共有する事であると考えております。

ところで、個人情報に対する社会意識の変化を反映して、会員の皆様の情報を会員が共有することが難しくなっております。私は、会員の皆様のお許しを得て、会員各位の経歴、業績等を相互に知りうるよう名簿を再刊したいと思っています。その形式、配布の範囲等は、十分に検討する必要がありますが、会員名簿によって会員が相互に、それぞれがもつ「知、情報、経験」を共有することが出来ると思います。その結果、会員個々人の「知、情報、経験」が、本会全体の「知、情報、経験」となり、本会の貴重な資産となることは間違いありません。また本会には、現在はほとんど休眠状態ですが、外国人会員の制度があります。この制度を活用してわが国の農学の国際的発信に活用することも検討課題の一つであろうと思います。

日本農学アカデミーが、農学の立場から社会に向かって情報発信をしようとするならば、先ず足下を固める必要があります。会員の「知、情報、経験」の交流・共有が、その第一歩となると考えます。会員諸氏の、ご理解とご協力をお願いいたします。